

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：82512
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2019
課題番号：16K17064
研究課題名（和文）サブナショナル権威主義の一帰結 上院におけるキャリアパスと議員行動の比較分析

研究課題名（英文）A Consequence of Subnational Authoritarianism: Career Path and Legislative Behavior of Senators in Comparative Perspective

研究代表者
菊池 啓一（KIKUCHI, Hirokazu）

独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・その他部局等・海外研究員

研究者番号：80735374
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では各議員の選出された州の民主主義の程度が立法過程の各段階での議員行動に与える影響を明らかにするため、連邦制を採るアルゼンチンとブラジルの上院議員の委員会と本会議での行動を分析した。その結果、ブラジルでは、州知事選における競争性の低さが州知事の選挙連合に所属する上院議員の記名投票での一体性の強さにつながることで、アルゼンチンでは委員会における再選経験のある州知事の子飼いの上院議員のシェアが大きくなるほど法案が棚上げ廃案となる可能性が高まること、等が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

サブナショナル権威主義に関する議論は比較議会研究における議論との親和性が極めて高いにもかかわらず、国内外の比較政治学において意識されてこなかった。よって、両者の架橋を試みた本研究の意義は大きい。また、本研究の知見は選挙制度と立法過程の特徴が議会の法案審議に影響を及ぼすことを示しており、我が国における選挙制度改革や国会改革に関する議論にも貢献すると考えられる。さらに、ラテンアメリカの上院を対象とした研究は極めて少ないため、本研究の成果に言及する論文も出版され始めている。

研究成果の概要（英文）：In order to unpack the influences of subnational democracy over national legislative behavior at each phase of the legislative process, this study analyzes committee behavior and floor behavior of Argentine and Brazilian senators. This study shows that less competitiveness in gubernatorial elections leads to more unity in roll-call behavior of senators who are affiliated with governors' electoral coalitions in Brazil, whereas committees with higher share of reelected governors' subordinates tend to shelve more presidential bills in the Argentine Senate.

研究分野：比較政治学 ラテンアメリカ政治

キーワード：政治学 サブナショナル権威主義 連邦制 アルゼンチン ブラジル

1. 研究開始当初の背景

(1) 多くのラテンアメリカ諸国は 1980 年代から 1990 年代にかけて民主化し、民主主義が定着しているが、民主主義の質を巡る議論が近年注目を浴びている。中でも多くの研究者の注目を集めている研究テーマの一つが、「サブナショナル権威主義 (subnational authoritarianism)」である。ギブソン (Gibson 2012) によれば、国政レベルにおいては民主化が進み、民主主義が定着しているにもかかわらず、地方政治において権威主義が残存している状態を指す概念であり、アルゼンチンのサンティアゴゴデルエステロ州やメキシコのアハカ州がその例として挙げられる。ただし、既存の研究のほとんどは同概念の測定方法がサブナショナル権威主義の維持・変化のメカニズムを説明しようとするものであり、地方政治のそのような状況が国政に与える影響が論じられることはほとんどない。

(2) 一方、議会研究においては、連邦制下の多くの国で下院議員が州知事の意向に従って行動すると論じられているが、これらの研究の統計モデルの推定結果は必ずしも説得的なものではなく、ロサスとラングストン (Rosas and Langston 2011) が示した特定の州から選出された下院議員の凝集性の高さも、州知事の影響力を示しているかどうかは不明である。連邦制下において州の利益を代表するのは上院であることから、地方政治の国政への影響を明らかにするには、上院を分析する必要があると考えられる。

2. 研究の目的

上記の背景を踏まえ、本研究では連邦制を採るアルゼンチンとブラジルの上院議員の委員会と本会議での行動を分析し、彼らの選出された州の民主主義の程度が立法過程の各段階での議員行動に与える影響を明らかにする。まず、サブナショナル権威主義研究や議会研究に関する先行研究の幅広い批判的検討を通じ、選出州の民主主義の程度と上院議員の委員会と本会議での行動パターンの関係を説明する理論的枠組みを構築する。そして、アルゼンチンとブラジルにおけるデータ収集およびインタビュー調査を通じて得られた定性的・定量的情報をもとに、理論的枠組みの妥当性を検証する。制度的類似性が高いものの多様性のある両国の国家間比較と地域間比較を行い、他地域の事例にも含意のある地方レベルにおける民主主義の程度と国会議員の行動パターンの関係の一般化を目的とする。

3. 研究の方法

(1) 本研究は第 1 に、サブナショナル権威主義に関する先行研究の幅広い批判的検討を通じ、各州における民主主義のどの側面に注目するのかを確定する。第 2 に、選出州の民主主義の程度と上院議員の行動パターンの関係を説明する理論的枠組みを構築する。そして第 3 に、その理論的枠組みの妥当性をアルゼンチンとブラジルの上院議員のプロフィールデータや記名投票データ、委員会データ、インタビュー調査から得られた情報をもとに検証する。

(2) 本研究では、アルゼンチンとブラジルという 2 つの連邦制国家を事例として用いる。何れの国も 1980 年代に民主化したラテンアメリカの大国であり、連邦制・大統領制を採用しているなど、制度的な類似性が高い。一方、候補者選出や州知事の連続再選規定の地域差などの面において、両国は大きく異なっている。よって、国家間比較と地域間比較を組み合わせることで、理論的枠組みを多角的に検証することが可能である。

(3) 定性的・定量的情報の収集のため、研究代表者は 2017 年 7~9 月にアルゼンチン・ブラジル両国で、2019 年 3 月・7 月・10 月にアルゼンチンで、2019 年 9 月にブラジルでそれぞれ現地調査を行った。

4. 研究成果

(1) ダイヤモンド (Diamond 2015) は、民主主義の崩壊や退行の増加、新興国における政治的権利・市民的自由・法の支配の後退、アメリカ合衆国に代表される先進民主主義国における民主主義のパフォーマンスの悪化などを指摘し、2006 年ごろから長期的な「民主主義の後退」が生じていると論じているが、地方における「手続き的」民主主義もその例外ではない。「民主主義の多様性」(Varieties of Democracy: V-Dem) プロジェクトの「地方選挙自由公正 (subnational elections free and fair)」変数の変化に注目すると、2007 年以降新興民主主義国の地方選挙における自由公正度の後退が見られ、2014 年時点では多くの国で選挙結果に影響を及ぼさない程度の選挙不正が生じる状態になっていた。(この点について、2018 年に出版した『後退する民主主義、強化される権威主義』の担当章で指摘した。)ただし、この傾向は少なくとも 2012 年までのアルゼンチンと 2015 年までのブラジルには当てはまらず、その後数値に変動は見られるものの、両国の地方選挙は自由公正であるとの評価を受けている。

(2) 既存のサブナショナル権威主義研究においてはその測定方法が重視されてきた。例えば、アルゼンチンとメキシコ各州の地方政治を比較したヒラウディ (Giraudy 2015) は州レベルにおける政権交代、州知事選・州議員選の競争性と透明性を、アルゼンチン各州について「地方民主主義指数 (Subnational Democracy Index)」を構築したヘルバソニー (Gervasoni 2018) は州知事選・州議員選の競争性、州知事所属政党の州議会におけるシェア、州知事の再選制限と後継候補者との関係を、ブラジル各州に注目したボルジェス (Borges 2007) は州知事選の競争性、州知事所属政党・政党連合の州議会におけるシェア、特定政党による州知事ポストの独占の度合いをそれぞれ変数化している。以上のように、各州における民主主義の程度の測定方法はまちまちであるが、地方選挙における競争性と州レベルにおける政権交代の頻度という 2 点の重要性については研究者間の合意が見られる。

以上の 2 点は、既存の議会研究の議論とも親和性が高い。アルゼンチン下院を対象とした研究においては、州知事の地方マシンの独占による議員候補者選出過程への影響力が、州知事による下院議員のコントロールを可能にするとされている (e.g., Jones and Hwang 2005)。また、メキシコやブラジルにおいても、地方マシンの存在と州知事による公的リソースの独占が彼らの下院議員への影響力を高めると考えられている (e.g., Samuels 2003; Rosas and Langston 2011)。よって、本研究でもこの 2 点に注目した。

(3) 各州における民主主義の程度と本会議における上院議員の行動との関係については、「仮説 1: 州知事選の競争性が低いほど、州知事と同じ選挙連合の上院議員の記名投票における一体性が高まる。」「仮説 2: 州知事の選挙連合の安定性が高いほど、州知事と同じ選挙連合の上院議員の記名投票における一体性が高まる。」という 2 つの仮説の検証を行った。

まず 2001~2007 年にアルゼンチン上院で実施された 1020 の記名投票と 2003~2014 年にブラジル上院で実施された 610 の記名投票のデータベースを作成し、各上院議員の理想点 (ideal point) を党派性が対立軸であることを示す次元モデルによって推定した。そして、既存の研究 (e.g., Jones and Hwang 2005) と同様に、州知事の選挙連合に所属する上院議員達の理想点のメディアン標準偏差から、それらの上院議員の所属する政党の全議員の理想点のメディアン標準偏差を引いた値を従属変数とした。(この値が正である場合、州知事の選挙連合に所属する上院議員達は、彼らの所属する政党の凝集性以上の一体性を記名投票において示しているということになる。)

ただし、任期 6 年で 2 年ごとに 3 分の 1 が改選されるアルゼンチン上院の各州の定数は 3 (第一党が 2 議席、第二党が 1 議席獲得)、任期 8 年で 4 年ごとに 3 分の 2 もしくは 3 分の 1 が改選されるブラジル上院の各州の定数は 2 または 1 であり、州知事の選挙連合に所属する候補が必ずしも複数当選できるとは限らない。そこで、州知事の選挙連合に所属する上院議員が複数いるか否かの条件も考慮した上でヘックマンモデルによる仮説検証を行ったが、ブラジルのデータについてのみ仮説 1 が支持された。すなわち、ブラジルでは、州知事選における競争性の低さがその直後の 4 年間における州知事の選挙連合に所属する上院議員の記名投票での一体性の強さにつながるということが明らかになった。(この知見については、2019 年 4 月に開催されたアメリカ中西部政治学会 (MPSA) の大会にて報告した。)

(4) 各州における民主主義の程度と委員会における上院議員の行動との関係については、両国の委員会における委員構成の特徴が大統領提出法案の審議結果に与える影響を分析した。委員会においても両国の上院議員の行動パターンは大きく異なっている。アルゼンチンで 1983~2007 年に上院委員会で審議された 658 本の大統領提出法案の場合、法案審議を担当した委員会における再選経験のある州知事の子飼いの上院議員のシェアが大きくなるほど法案が棚上げによる時間切れ廃案となる可能性が高まる。(この点について、2018 年に出版した *Presidents versus Federalism in the National Legislative Process* で指摘した。) 他方、ブラジルで 1995~2014 年に上院で審議された 627 本の大統領提出法案の場合、法案審議を担当した委員会における州知事の政党連合に属する上院議員のシェアが大きいほど法案修正の可能性が低くなることが示された。

(5) 両国における上院議員の行動パターンの違いは、選挙制度と立法過程の特徴の差異によって説明できると考えられる。議員は自身の政治的キャリアにとって重要なアクターにアピールすべく、委員会における大統領提出法案の修正などの「業績誇示 (credit-claiming)」や本会議での記名投票などを通じて自身の態度を明らかにする「態度表明 (position-taking)」を行う。アルゼンチンの場合、州知事が候補者選出過程に絶大な影響力を有しているため、有権者ではなく州知事にたいする業績誇示が重要である。また、同国上院では委員会における議決が全会一致を基本としているため、一委員が法案を阻止できる可能性が高い。そのため、委員会における業績誇示が優先される。他方、ブラジルの場合、候補者中心の選挙制度が採用されており、有権者への態度表明が必要不可欠である。さらに、同国上院の委員会における決定方式は集権的であり、委員長と彼の指名する「報告者 (relator)」を中心に審議が進められる。よって、ブラジルでは委員会における業績誇示よりも本会議における態度表明が優先されると考えられる。

(6) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト: 本報告書からも明らかであるように、サブナショナル権威主義に関する議論は比較議会研究における議論との親和性が極めて高いに

もかかわらず、国内外の比較政治学において意識されてこなかった。よって、両者の架橋を試みた本研究の意義は大きい。また、本研究の知見は選挙制度と立法過程の特徴が議会の法案審議に影響を及ぼすことを示しており、我が国における選挙制度改革や国会改革に関する議論にも貢献すると考えられる。さらに、ラテンアメリカの上院を対象とした研究は極めて少ないため、2018年に出版した *Presidents versus Federalism in the National Legislative Process* に言及する論文も出版され始めている (e.g., Clerici 2020)。

(7) 今後の展望：近年の比較政治学では再び行動論に注目が集まっており、制度を対象とする議会研究はやや停滞気味である。その背景には、90年代後半から2010年代前半にかけて比較議会研究が大幅に進み、選挙制度による議員行動の説明がやり尽くされたように見受けられる点もあると思われるが、本研究で示された立法過程の特徴の影響に関する多国間比較はほぼ行われていない。また、地方における民主主義の程度も、国政レベルにおける世界的な「民主主義の後退」潮流の中で大きく変化していくと考えられる。よって、ラテンアメリカに限らない多国間比較を視野に入れた研究を今後の課題としたい。

< 引用文献 >

Borges, André. 2007. "Rethinking State Politics: The Withering of State Dominant Machines in Brazil." *Brazilian Political Science Review* 1(2): 108-156.

Clerici, Paula. 2020. "Minorities at the Gate: The Legislative Contribution of Opposition Minorities and the Committee System: Evidence from Argentina." *The Journal of Legislative Studies* 26(2): 180-203.

Diamond, Larry. 2015. "Facing Up to the Democratic Recession." *Journal of Democracy* 26(1): 141-155.

Gervasoni, Carlos. 2018. *Hybrid Regimes within Democracies: Fiscal Federalism and Subnational Rentier States*. Cambridge: Cambridge University Press.

Gibson, Edward L. 2012. *Boundary Control: Subnational Authoritarianism in Federal Democracies*. Cambridge: Cambridge University Press.

Giraudy, Agustina. 2015. *Democrats and Autocrats: Pathways of Subnational Undemocratic Regime Continuity within Democratic Countries*. Oxford: Oxford University Press.

Jones, Mark P., and Wonjae Hwang. 2005. "Party Government in Presidential Democracies: Extending Cartel Theory Beyond the U.S. Congress." *American Journal of Political Science* 49(2): 267-282.

Rosas, Guillermo, and Joy Langston. 2011. "Gubernatorial Effects on the Voting Behavior of National Legislators." *The Journal of Politics* 73(2): 477-493.

Samuels, David. 2003. *Ambition, Federalism, and Legislative Politics in Brazil*. Cambridge: Cambridge University Press.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 KIKUCHI HIROKAZU	4. 巻 53(1)
2. 論文標題 The Representation of East Asia in Latin American Legislatures	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Issues & Studies	6. 最初と最後の頁 (1740005)1~32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1142/S1013251117400057	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池 啓一	4. 巻 33(1)
2. 論文標題 2015年アルゼンチン大統領選挙 なぜ与党連合は負けたのか	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ラテンアメリカ・レポート	6. 最初と最後の頁 14-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菊池 啓一	4. 巻 36
2. 論文標題 ポルソナ口政権下における不安定な大統領・議会関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ラテンアメリカ・レポート	6. 最初と最後の頁 1~12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/latinamericareport.36.1_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Kikuchi, Hirokazu
2. 発表標題 Varieties in Subnational Machine Dominance and National Legislative Behavior: The Cases of Argentina and Brazil
3. 学会等名 Midwest Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hirokazu Kikuchi
2. 発表標題 Legislative Behavior and the Legislative Process: Evidence from the Argentine Senate
3. 学会等名 The 3rd conference of Asociacion Latinoamericana de Ciencia Politica (ALACIP) Standing Group on Legislative Studies (GEL) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hirokazu Kikuchi
2. 発表標題 The Representation of Asia in Latin American Legislatures
3. 学会等名 International Workshop on China and Latin American Political Economy (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hirokazu Kikuchi
2. 発表標題 Presentacion de libro: Presidents versus Federalism in the National Legislative Process : The Argentine Senate in Comparative Perspective
3. 学会等名 Sociedad Argentina de Analisis Politico (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Kikuchi, Hirokazu	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 295 + XX
3. 書名 Presidents versus Federalism in the National Legislative Process : The Argentine Senate in Comparative Perspective	

1. 著者名 川中豪、重富真一、湊一樹、間寧、牧野久美子、大串敦、馬場香織、菊池啓一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 270
3. 書名 後退する民主主義、強化される権威主義	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>日本貿易振興機構アジア経済研究所ホームページ https://www.ide.go.jp/Japanese/Researchers/kikuchi_hirokazu.html トルクアト・ディ・テラ大学ホームページ https://www.utdt.edu/ver_novedad.php?id_novedad=3421&id_item_menu=442</p>
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考